

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01021

研究課題名（和文）オスマン帝都イスタンブルの都市改革と多文化社会の近代

研究課題名（英文）Urban Reforms in Ottoman Istanbul and Modernity in a Multicultural Society

研究代表者

上野 雅由樹（Ueno, Masayuki）

大阪公立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：10709538

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究で報告者は、文化的背景の面で多様な人々を内包した帝都イスタンブルにおいて、オスマン帝国が19世紀に進めた都市改革に焦点を当て、住民の文化的多様性との関連で都市改革がどのような方向性を持ったのかを検討した。その結果、都市改革の過程では帝国政府と非ムスリム住民のあいだで様々な形での交渉が見られ、宗教と関わる側面では帝国政府が非ムスリムの側に譲歩し、都市空間の整備のあり方を修正する場面が見られたことを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、19世紀の近代国家過程においてオスマン帝国の首都イスタンブルで進められた都市改革を、帝国政府が主導した上からの制度的変革としてだけでなく、宗教や文化の面で多様な人々の存在をふまえ、都市社会史の観点から捉え直すという点、また、近世から近代への移行期において、オスマン帝国下の多文化社会がどのように機能し、そのあり方がどのように変化していったのかを明らかにするという点に学術的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This project focused on the urban reforms that the Ottoman Empire conducted in the 19th century in Istanbul, a city that included a diverse population in terms of cultural and religious backgrounds, and examined the direction of the urban reforms in relation to the cultural and religious diversity of the residents. It revealed that various forms of negotiations between the imperial government and non-Muslim residents were observed in the process of urban reforms, and that the imperial government made concessions to the non-Muslims in the aspect related to religion and modified the way the urban space was reorganized.

研究分野：オスマン帝国史

キーワード：オスマン帝国 イスタンブル 都市改革 非ムスリム アルメニア人

1. 研究開始当初の背景

オスマン帝都イスタンブルは、近世・近代の巨大都市であり、15世紀中葉から20世紀初頭にいたるまで一貫して、文化的背景の面で多様な人々を内包したことを特徴としていた。人口統計が行われる19世紀には、イスタンブルの人口のおよそ半数をムスリムが、それ以外をキリスト教徒やユダヤ教徒といった非ムスリムが占めていたことが知られており、異なる宗教・宗派の人々がゆるやかにすみ分けながらも生活空間を共有していた。そのイスタンブルでは、19世紀にオスマン帝国が近代国家化を進めるなかで、近代的な市政制度の設立や道路の拡張と整理、ガス灯の設置、ゴミ収集制度の整備など、様々な形で都市改革が進められたことが知られている。こうした都市改革をめぐって、これまでの研究は、その制度的側面に注目し、帝国政府がいかにイスタンブルを空間的に整備し、新たなインフラや施設を備えさせていったのかを明らかにしてきた。ただし、そうした研究は、中央政府の上からの改革としてイスタンブルの都市改革を描く傾向にあり、住民の宗教的多様性というイスタンブルの特徴をふまえて改革事業の実態を捉えるには至っていない。

その一方で、オスマン帝国近代史全般をめぐっては、2000年代以降、オスマン社会を構成した人々の文化的多様性に留意しつつ、近代国家がもたらした諸事業の社会的インパクトや統治下の人々の順応と反発に目を向け、より広い視野から近世から近代への移行を捉えようとする傾向が高まっている。こうした近年の潮流は、19世紀以降のオスマン帝国が必ずしも社会の均質化を目指したのではなく、近世以来の宗教的多様性を維持しつつ、近代国家化を果たそうとしたことを明らかにしつつある。

2. 研究の目的

こうした研究上の背景を受け、本研究で報告者は、19世紀のイスタンブルにおいてオスマン帝国政府が都市改革を進めるなかでいかに非ムスリム住民と交渉し、利害の調整を図ったのかを検討課題とすることとした。そして、非ムスリム諸宗派共同体の存在を視野に入れつつ、19世紀にはイスタンブル人口の2割近くを占め、非ムスリム諸集団のなかでも宗派独自の自治組織の形成に積極的に取り組んだことで知られるキリスト教徒アルメニア人の事例に特に注目し、イスタンブルの都市改革が、宗教・宗派別の個別性に配慮した側面をどの程度有していたのかを解明することを本研究の目的として設定した。

3. 研究の方法

上記の目標を達成すべく、本研究は、従来の研究のように制度的な展開を重視するのではなく、都市改革の過程で非ムスリムの利害と関わって生じた様々な個別の問題に注目した。そして、それら問題が解決される過程で様々な行為主体がどのような行動を選択し、それをどのように説明したのかを注視することで、19世紀のイスタンブルにおける社会関係を浮かび上げ、住民の文化的多様性との関連で都市改革がどのような性格を持ったのかを検討するという手法をとった。これまで注目されることのなかったそうした諸問題について情報を収集するために本研究では、トルコの大統領府文書館に所蔵されているオスマン帝国の行政文書や、19世紀にイスタンブルで出版されたアルメニア語、アルメニア文字のトルコ語新聞といった一次史料を幅広く調査した。具体的に注目した問題は以下の2点である。

(1) ムフタル制の導入と運用

オスマン帝国は1820年代のイスタンブルを皮切りに、街区や教区といった都市民の生活共同体を行政単位として整備し直し、宗教・宗派毎にそれぞれムフタルと呼ばれる役職者を任命する制度改革を行った。本研究では、これまで注目されることが少なかった非ムスリムのムフタルを取り上げ、彼らのあいだでムフタル制がどのような形で運用されたのか、非ムスリムのムフタルが彼らの聖職者機構とどのような関係を有したのか、ムフタルの権限をめぐって帝国政府と非ムスリム諸宗派集団とのあいだでどのような交渉が見られたのかを検討した。

(2) 墓地の移転と接収

19世紀に進んだ市域の拡大を受けて、オスマン帝国はイスタンブルにおいて元々郊外にありながら居住区域と隣接するようになった墓地の移転に取り組んだ。ただし、イスタンブルで墓地は宗教・宗派別に所有・管理されてきたがゆえに、墓地の移転は各宗派集団の利害と関わる事柄だった。本研究では、オスマン政府が都市空間を整備する過程で墓地をめぐって非ムスリム、とりわけアルメニア人とどのように交渉したのか、その過程で当事者たちはどのような根拠に基づいて権利を主張したのかを考察した。

4. 研究成果

本研究で得られた主たる成果は以下の通りである。

(1) ムフタル制の運用と非ムスリム聖職者機構

これまでの研究は、宗教・宗派別にムフタルと呼ばれる役職者がそれぞれの街区や教区に任命されたことを指摘してきたものの、ムフタル制の運用実態をめぐっては、概してムスリムの事例を軸に論じるとどまり、ムフタル制の運用のあり方が宗教・宗派毎に違いを有していた可能性を視野に入れてこなかった。本研究では、オスマン帝国の行政文書を調査することで得られた情報を主な手がかりとしつつ、19世紀にイスタンブルで出版されたアルメニア語新聞を併用することで、イスタンブルの非ムスリムのあいだでのムフタル制のあり方を検討した。

その結果、帝国の行政機関が直接、その監督下にムスリムのムフタルを置いたのとは異なり、非ムスリムの場合には総主教座や首席ラビ座といった非ムスリムの宗教的権威が彼らのムフタルと帝国の行政機関とのあいだに入る形でムフタル制が運用されていたことをまず明らかにすることができた。また、ムフタル制が導入された初期の段階においては帝国政府は総主教座と首席ラビ座を利用することでムフタルを通じた住民管理を円滑に進めようとしたのに対し、1880年前後から、総主教座と首席ラビ座をムフタル制の運用から排除しようとしたことも解明することができた。

(2) アルメニア人墓地の外壁建設、移転、接収

本研究では、オスマン帝国の行政文書やアルメニア語新聞を調査することで、墓地の外壁建設や移転、接収といった問題が1840年代から見られるようになること、その過程でアルメニア人の代表者たちは戦略的に行動することで自分たちの墓地を守るように積極的に取り組んだこと、その際に主な根拠となったのは、1853年に帝国政府が公認した非ムスリムの宗教的特権だったことを明らかにすることができた。

本研究で主な考察の対象としたのは、イスタンブルの郊外に位置し、19世紀の市域拡大過程を経て大イスタンブルの一部に組み込まれていった地区のうち、カドゥキョイ、ベシクタシ、ベイオールに存在したアルメニア人墓地である。このうち、カドゥキョイ墓地は、1840年代から50年代にかけて見られた墓地の外壁建設に関する最初期の事例であり、1840年代の段階ですでに居住域と墓地との近さが問題と見なされるようになっていたこと、アルメニア人側が早い段階で外壁を建設することを提案し、その許可を得たことで墓地を守ることができたことを発見した。ベシクタシのアルメニア人墓地をめぐっては、1865年のコレラ蔓延を受けて埋葬が禁止されたものの、帝国政府との交渉の末、その用地を守ることに成功したことを明らかにすることができた。ベイオールのアルメニア人墓地をめぐっては、やはり同様に埋葬禁止の対象になったものの、座り込みや皇帝への直訴を含む抗議行動により、アルメニア人側が墓地の用地を守ることに成功したことを確認することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Ueno Masayuki	4. 巻 54
2. 論文標題 In Pursuit of Laicized Urban Administration: The Muhtar System in Istanbul and Ottoman Attitudes toward Non-Muslim Religious Authorities in the Nineteenth Century	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Middle East Studies	6. 最初と最後の頁 302~318
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S0020743822000113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上野雅由樹・上柿智生	4. 巻 249
2. 論文標題 19世紀のイスタンブルにおける教区とムフタル制	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 上野雅由樹
2. 発表標題 19世紀オスマン帝国の都市社会史：多宗教多宗派都市イスタンブルにおける教区とムフタル制
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会4月例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masayuki Ueno
2. 発表標題 Cooperation Against the “Religion of the Pope”: The Ottoman Empire and the Armenian Patriarchs of Istanbul in the Eighteenth Century
3. 学会等名 International Conference of Eastern Studies（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上野雅由樹
2. 発表標題 19世紀のイスタンブルにおけるムフタル制の運用と非ムスリム
3. 学会等名 九州史学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上野雅由樹
2. 発表標題 19世紀イスタンブルの都市改革と墓地接收
3. 学会等名 「周縁的社会集団と近代」第21回セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上野雅由樹
2. 発表標題 19世紀中葉のイスタンブルにおける市域拡大と墓地
3. 学会等名 周縁的社会集団と近代2019年度ワークショップ「日中都市史研究の新しい課題・方法・展開 周縁的社会集団と近代」
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 塚田孝、佐賀朝、渡辺健哉、上野雅由樹（共編著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 478
3. 書名 周縁的社会集団と近代	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------